

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 7
開講期間 / Class period	2015/04/01 ~ 2015/09/27		
必修選択 / Required/Elective class	必修, 選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	201505600010E1	科目番号 / Subject code	05600010
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	教養セミナー		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	片山 朗		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	片山 朗		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	片山 朗		
科目分類 / Class type	共通基礎科目, 自由科目(専門), 自由選択科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	[経済]新館402(演習室)		
授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives	大学入学以前の教師主導型を主とする学習からの転換を図り, 大学における自主的な学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。そのため, 知的活動への動機づけを高め, 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力, レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的な目標とする。また, 大学での学習の入り口として, 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り, グループ作りに役立てることも狙いとしている。		
授業到達目標 / Goal	知的活動への動機づけを高める。 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じて適切な自己表現能力を身につける。 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り, ものの見方, 考え方の多様性を涵養する。		
授業方法(学習指導法) / Method	・1クラス10~12名程度の学生で構成し, 原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ディスカッション, 実地調査など体験的・双方向的学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。		
授業内容 / Class outline / Con	・週1コマ, 15週で2単位とする。 ・自主的に学習し, 課題を発見し, 解決するとはどのようなことかを, 討論など体験的・双方向的な学習形態を通して身につける。 ・各教員の指示に従い, 課題についてのグループディスカッション, 全体ディスカッション, グループによるテーマ研究, 成果のプレゼンテーション・質疑応答, レポート作成などに取り組む。 ・図書館資料収集ガイダンス, メディアステーションガイダンス, 情報セキュリティやICT利用に関する授業などが適宜組み込まれる。		
教科書・教材・参考書 / Textbook, Teaching material, and Reference book	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等 / Evaluation	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加, 情報の収集状況・分析など), プレゼンテーション(わかりやすい資料, 話の構成, 説得力など), レポート(構成, 文章表現など)により総合的に評価する。詳細は各クラスの担当教員の指示による。		

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 7
開講期間 / Class period	2015/04/01 ~ 2015/09/27		
必修選択 / Required/Elective class	必修, 選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	201505600010E2	科目番号 / Subject code	05600010
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	教養セミナー		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	高木 かおる		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	高木 かおる		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	高木 かおる		
科目分類 / Class type	共通基礎科目, 自由科目 (専門), 自由選択科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room			
授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives	大学入学以前の教師主導型を主とする学習からの転換を図り, 大学における自主的な学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。そのため, 知的活動への動機づけを高め, 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力, レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的な目標とする。また, 大学での学習の入り口として, 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り, グループ作りに役立てることも狙いとしている。		
授業到達目標 / Goal	知的活動への動機づけを高める。 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じて適切な自己表現能力を身につける。 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り, ものの見方, 考え方の多様性を涵養する。		
授業方法 (学習指導法) / Method	・1クラス10~12名程度の学生で構成し, 原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ディスカッション, 実地調査など体験的・双方向的学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。		
授業内容 / Class outline / Con	・週1コマ, 15週で2単位とする。 ・自主的に学習し, 課題を発見し, 解決するとはどのようなことかを, 討論など体験的・双方向的な学習形態を通して身につける。 ・各教員の指示に従い, 課題についてのグループディスカッション, 全体ディスカッション, グループによるテーマ研究, 成果のプレゼンテーション・質疑応答, レポート作成などに取り組む。 ・図書館資料収集ガイダンス, メディアステーションガイダンス, 情報セキュリティやICT利用に関する授業などが適宜組み込まれる。		
教科書・教材・参考書 / Textbook, Teaching material, and Reference book	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等 / Evaluation	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加, 情報の収集状況・分析など), プレゼンテーション(わかりやすい資料, 話の構成, 説得力など), レポート(構成, 文章表現など)により総合的に評価する。詳細は各クラスの担当教員の指示による。		

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 7
開講期間 / Class period	2015/04/01 ~ 2015/09/27		
必修選択 / Required/Elective class	必修, 選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	201505600010E3	科目番号 / Subject code	05600010
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	教養セミナー		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	谷口 眞司		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	谷口 眞司		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	谷口 眞司		
科目分類 / Class type	共通基礎科目, 自由科目 (専門), 自由選択科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room			
授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives	大学入学以前の教師主導型を主とする学習からの転換を図り, 大学における自主的な学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。そのため, 知的活動への動機づけを高め, 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力, レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的な目標とする。また, 大学での学習の入り口として, 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り, グループ作りに役立てることも狙いとしている。		
授業到達目標 / Goal	知的活動への動機づけを高める。 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じて適切な自己表現能力を身につける。 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り, ものの見方, 考え方の多様性を涵養する。		
授業方法 (学習指導法) / Method	・1クラス10~12名程度の学生で構成し, 原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ディスカッション, 実地調査など体験的・双方向的学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。		
授業内容 / Class outline / Con	・週1コマ, 15週で2単位とする。 ・自主的に学習し, 課題を発見し, 解決するとはどのようなことかを, 討論など体験的・双方向的な学習形態を通して身につける。 ・各教員の指示に従い, 課題についてのグループディスカッション, 全体ディスカッション, グループによるテーマ研究, 成果のプレゼンテーション・質疑応答, レポート作成などに取り組む。 ・図書館資料収集ガイダンス, メディアステーションガイダンス, 情報セキュリティやICT利用に関する授業などが適宜組み込まれる。		
教科書・教材・参考書 / Textbook, Teaching material, and Reference book	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等 / Evaluation	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加, 情報の収集状況・分析など), プレゼンテーション(わかりやすい資料, 話の構成, 説得力など), レポート(構成, 文章表現など)により総合的に評価する。詳細は各クラスの担当教員の指示による。		

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 7
開講期間 / Class period	2015/04/01 ~ 2015/09/27		
必修選択 / Required/Elective class	必修, 選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	201505600010E4	科目番号 / Subject code	05600010
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	教養セミナー		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	西村 宣彦		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	西村 宣彦		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	西村 宣彦		
科目分類 / Class type	共通基礎科目, 自由科目 (専門), 自由選択科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room			
授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives	大学入学以前の教師主導型を主とする学習からの転換を図り, 大学における自主的な学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。そのため, 知的活動への動機づけを高め, 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力, レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的な目標とする。また, 大学での学習の入り口として, 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り, グループ作りに役立てることも狙いとしている。		
授業到達目標 / Goal	知的活動への動機づけを高める。 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じて適切な自己表現能力を身につける。 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り, ものの見方, 考え方の多様性を涵養する。		
授業方法 (学習指導法) / Method	・1クラス10~12名程度の学生で構成し, 原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ディスカッション, 実地調査など体験的・双方向的学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。		
授業内容 / Class outline / Con	・週1コマ, 15週で2単位とする。 ・自主的に学習し, 課題を発見し, 解決するとはどのようなことかを, 討論など体験的・双方向的な学習形態を通して身につける。 ・各教員の指示に従い, 課題についてのグループディスカッション, 全体ディスカッション, グループによるテーマ研究, 成果のプレゼンテーション・質疑応答, レポート作成などに取り組む。 ・図書館資料収集ガイダンス, メディアステーションガイダンス, 情報セキュリティやICT利用に関する授業などが適宜組み込まれる。		
教科書・教材・参考書 / Textbook, Teaching material, and Reference book	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等 / Evaluation	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加, 情報の収集状況・分析など), プレゼンテーション(わかりやすい資料, 話の構成, 説得力など), レポート(構成, 文章表現など)により総合的に評価する。詳細は各クラスの担当教員の指示による。		

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 7
開講期間 / Class period	2015/04/01 ~ 2015/09/27		
必修選択 / Required/Elective class	必修, 選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	201505600010E5	科目番号 / Subject code	05600010
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	教養セミナー		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	深浦 厚之		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	深浦 厚之		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	深浦 厚之		
科目分類 / Class type	共通基礎科目, 自由科目 (専門), 自由選択科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room			
授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives	大学入学以前の教師主導型を主とする学習からの転換を図り, 大学における自主的な学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。そのため, 知的活動への動機づけを高め, 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力, レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的な目標とする。また, 大学での学習の入り口として, 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り, グループ作りに役立てることも狙いとしている。		
授業到達目標 / Goal	知的活動への動機づけを高める。 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じて適切な自己表現能力を身につける。 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り, ものの見方, 考え方の多様性を涵養する。		
授業方法 (学習指導法) / Method	・1クラス10~12名程度の学生で構成し, 原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ディスカッション, 実地調査など体験的・双方向的学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。		
授業内容 / Class outline / Con	・週1コマ, 15週で2単位とする。 ・自主的に学習し, 課題を発見し, 解決するとはどのようなことかを, 討論など体験的・双方向的な学習形態を通して身につける。 ・各教員の指示に従い, 課題についてのグループディスカッション, 全体ディスカッション, グループによるテーマ研究, 成果のプレゼンテーション・質疑応答, レポート作成などに取り組む。 ・図書館資料収集ガイダンス, メディアステーションガイダンス, 情報セキュリティやICT利用に関する授業などが適宜組み込まれる。		
教科書・教材・参考書 / Textbook, Teaching material, and Reference book	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等 / Evaluation	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加, 情報の収集状況・分析など), プレゼンテーション(わかりやすい資料, 話の構成, 説得力など), レポート(構成, 文章表現など)により総合的に評価する。詳細は各クラスの担当教員の指示による。		

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	木/Thu 7
開講期間 / Class period	2015/04/01 ~ 2015/09/27		
必修選択 / Required/Elective class	必修, 選択, 自由	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	1.0, 2.0/2.0, 0.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20150561001050	科目番号 / Subject code	05610010
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	情報処理入門		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	鈴木 斉		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	鈴木 斉		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	鈴木 斉		
科目分類 / Class type	査定外, 教職免許科目・その他, 情報処理科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年, 5年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	[ 経済 ] 本館MS 1		
対象学生 (クラス等) / Object Student	経済学部夜間主コース		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	sigh@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室 / Laboratory	経済学部本館 631		
担当教員TEL / Tel	095-820-6372		
担当教員オフィスアワー / Office hours	講義時間終了後、および、sigh@nagasaki-u.ac.jp にて受け付けています。		
授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives	<p>授業の概要          情報化が進んだ現代において、「情報を使いこなす力」(情報リテラシー)が生活する上での「生きる力」の一つとなっている。長崎大学では、学生が生涯にわたって主体的な学修を行っていくための基礎として、情報リテラシーを1年次で身につけることとしている。本科目では、情報リテラシーの習得を目的として、情報機器や情報システム、ネットワークといった技術的知識、情報セキュリティや情報倫理などの生活知識を身に付けるとともに、様々な情報システムやソフトウェアの活用技術を習得する。</p> <p>授業の位置づけ          本科目は教養教育における情報科学科目である。</p>		
授業到達目標 / Goal	<p>授業到達目標：          情報端末を正しく用いて情報を扱う情報リテラシーが身につくことを到達目標とする。この目標を達成するために、以下のサブ目標を挙げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報機器やネットワークの機能に関わる基本的事項を説明できる</li> <li>・情報機器やネットワークを利用する際の倫理やセキュリティを十分に理解し、ネットワークを活用できる</li> <li>・インターネット(Web)、電子メール、プレゼンテーション、文書作成、表計算を基本的に理解し、操作方法や活用方法を説明できる</li> <li>・情報資源・ネットワーク環境を利用して、情報を収集、分析、活用できる</li> </ul>		
授業方法 (学習指導法) / Method	<p>授業方法：          授業は、講義と演習とを組み合わせを進めます。講義内容の理解を深めるために各自が所有する必携パソコンを利用して操作演習を行う演習課題や自習課題を出します。          主体的学修促進支援システム (LACS) を、授業資料や演習課題の提示、課題回収や返却、各種連絡等に活用します。</p>		
授業内容 / Class outline / Con	<p>授業内容          原則として以下の内容に沿って授業を進めるが、進捗や理解度の状況に応じて若干の変更を行うことがあります。</p>		
キーワード / Key word	情報リテラシー、情報倫理、情報セキュリティ、ネットワーク社会		
教科書・教材・参考書 / Textbook, Teaching material, and Reference book	<p>教科書(2冊)： 「情報基礎」(生協のみで購入可能。一般の書店では入手できません)。          教養教育オリエンテーションにて配付した講義資料。          教材： 必要に応じて、資料や課題などをLACSにて公開します。</p>		
成績評価の方法・基準等 / Evaluation	<p>定期試験 30% コンピュータの動作原理、情報を扱う上で必要となる倫理観等が実際に理解できているかを筆記式の試験で確認します。          演習課題 60% 機器操作を伴う課題への取り組みや完成状況を基に判断します。          授業への参加状況 10% 作業指示に従わない場合や演習妨害等の行為は減点とします。</p>		
受講要件 (履修条件) / Requirements	<p>Windows 8.1~7及びMS-Office Professional/Home&amp;Business 2013/2010がインストールされたノートPC及びACアダプタを毎回必ず持参すること。          上記のMS-Office製品がインストールされていない場合、長崎大学生協にてOffice365の年間ライセンスまたはMS-Office Professional Academicを購入のこと。</p>		

備考 ( URL ) /Remarks(URL)	<a href="https://lacs.nagasaki-u.ac.jp/">https://lacs.nagasaki-u.ac.jp/</a>
学生へのメッセージ/Message for students	コンピュータの操作に慣れていない場合は、毎日少しの時間でもキーボードに触れる時間をとることが望まれます。
授業計画詳細	
回(日時) /Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	ガイダンス 授業方法の説明、必携パソコンの初期設定、無線LAN接続実習
第2回	PCの活用1 Office365セットアップ、LACS紹介と操作実習1
第3回	PCの活用2 LACS紹介と操作実習2、電子メール利用実習
第4回	情報セキュリティ 情報セキュリティとは、利用者・組織が取るべきセキュリティ対策
第5回	ネットワークの仕組み コンピュータのネットワーク、インターネットの構成
第6回	表計算1 Microsoft Excelの機能、基本操作、セルの参照、数式、表の書式設定
第7回	表計算2 グラフ作成・印刷、関数、複数シートを使ったデータ処理
第8回	表計算3 条件設定、複合グラフの作成、データの検索
第9回	表計算4 ピボットテーブル、マクロ活用
第10回	文書作成1 Microsoft Wordの操作、文字・段落の書式、オブジェクトの操作、表の作成、数式の作成
第11回	文書作成2 ページの設定、印刷方法、ワードアート挿入、スタイルの設定
第12回	プレゼンテーション1 プレゼンテーションとは、資料作成上の留意点、PowerPointについて
第13回	情報のデジタル化 情報のデジタル化とは、文字・音声・画像のデジタル化
第14回	プレゼンテーション2 プレゼンテーション実習
第15回	総合演習
第16回	まとめ、試験

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	水/Wed 7
開講期間 / Class period	2015/04/01 ~ 2015/09/27		
必修選択 / Required/Elective class	選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20150566001050	科目番号 / Subject code	05660010
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	人間と文化(破壊事故とヒューマンファクタ)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	林 秀千人		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	林 秀千人		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	林 秀千人, 小山 敦弘		
科目分類 / Class type	人文・社会科学科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	[経済]本館12(講義室)		
対象学生(クラス等) / Object Student	全学部2年生		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	hidechto@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室 / Laboratory	工学部1号館3F機械工学		
担当教員TEL / Tel	095-819-2516		
担当教員オフィスアワー / Office hours	月曜日午前8時から8時30分		
授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives	過去の事故等を調査しその問題討論することにより、安全に対する意識の向上を図る。		
授業到達目標 / Goal	安全を確保するための方法について考え、討論を行うことが出来る。		
授業方法(学習指導法) / Method	講義、調査、発表、討論からなる演習形式。特に、安全工学の概略について教員から講義を受け、共に討論を行う。		
授業内容 / Class outline / Con	<p>事故や災害に関わる問題では、設備や装置の安全な設計、それを運転する人間の教育、システムとしてのマネージメント・保守管理、組織(企業・経営)など様々なレベルがあり、各レベルにおける事故原因がある。また、原因ばかりでなく、その影響の大きさや広がりも把握することも重要である。さらに事故や災害時の対応やその後の対策も重要である。各回の授業において、それらについて調査し議論をおこなう。また、リスクアセスメント等の重要な考え方について演習を踏まえて学ぶ。</p> <p>1回 安全工学の概論(その1:リスクアセスメント)  2回 安全工学の概論(その2:安全文化)  3回 安全工学の概論(その3:グループ討議の検討)  4回 調査・討論(概略、状況、原因の調査:その1)  5回 調査・討論(概略、状況、原因の調査:その2)  6回 調査・討論(概略、状況、原因の調査:その3)  7回 調査・討論(対応、その後の経過:その1)  8回 調査・討論(対応、その後の経過:その2)  9回 調査・討論(対応、その後の経過:その3)  10回 調査・討論(事故の分析:その1)  11回 調査・討論(事故の分析:その2)  12回 調査・討論(事故の分析:その3)  13回 調査・討論(事故の分析:その4)  14回 調査・討論(全体討論:その1)  15回 調査・討論(全体討論:その2)</p> <p>クラス全体で最終発表を行う。各班は調査結果をパワーポイントを用いて発表するとともに、討論する。</p> <p>課題例: ソニーリチウム電池事故、日比谷線脱線衝突事故、シンドラエレベータ問題、六本木回転ドア事故、スペースシャトルチャレンジャー・コロンビア事故、H ロケット事故、東海村臨界事故、もんじゅNa漏れ事故、雲仙普賢岳噴火災害、長崎大水害、アスベスト問題など</p>		
キーワード / Key word	安全工学、事故、リスクアセスメント、安全文化		
教科書・教材・参考書 / Textbook, Teaching material, and Reference book	安全工学資料室にある資料(安全工学に関する参考書、安全工学や事故に関するビデオ)を利用する。		
成績評価の方法・基準等 / Evaluation	<p>・評価方法: レポート70点, プレゼンテーション30点の合計が60点以上を合格とする。</p> <p>・評価基準: 事故をよく調査しているか。関係者の事故や災害への対応とその後の対策についてよく調べているか。リスクアセスメントや事故後の情報や対策の展開の妥当性について考えているか。プレゼンテーションはわかりやすかったか。</p>		

受講要件（履修条件）/Requirements

- ・ 1年次の「安全・安心のモジュール」を聴講していることが望ましい。
- ・ 全回出席を原則とする。

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	月/Mon 7
開講期間 / Class period	2015/09/28 ~ 2016/03/31		
必修選択 / Required/Elective class	選択, 自由	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0, 0.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20150566005050	科目番号 / Subject code	05660050
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	社会と歴史(社会科学からみた安全・安心)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	松本 睦樹		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	松本 睦樹		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	松本 睦樹		
科目分類 / Class type	査定外, 人文・社会科学科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	[経済]新館101(講義室)		
対象学生(クラス等) / Object Student	選択科目(夜間主)		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	mutuki@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Laboratory	本館511号室		
担当教員オフィスアワー/Office hours	火曜日17:30 ~ 18:30		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	社会経済の発展は、一方で個人や国家間のレベルにおいて多様な問題を生み出し、同時にそれを解決してきた。本講義では、1つは「安全・安心」を求める個人が社会集団化した現象を、いま1つは国家間の紛争を解決する国際機関が発足した経緯をテーマに、主として経済史的視角から歴史現象を学ぶ。		
授業到達目標/Goal	いくつかの歴上の出来事を検証することにより、ある意味で歴史とは人びとが「安全と安心」を求める行動の積み重ねであったことを理解する。		
授業方法(学習指導法) / Method	プロジェクターを利用した説明、受講者による発表、レポートの作成など様々な要素を織り交ぜ、シラバスに示した授業計画に沿って講義を進める。また、授業時間を利用して、小テストを何度か実施する予定である。		
授業内容/Class outline/Con			
キーワード/Key word	集団化、カースト、国際協調		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	使用しない		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	小テストの成績を100点満点で計算し、それに毎回のレポートの成績や講義への参加状況などを加味する(レポートの不提出や4回を越える欠席などは減点対象とする)。定期試験は行わない。なお、出席すべき講義回数数の3分の2以上を出席することが、単位認定の必要条件である。		
学生へのメッセージ/Message for students	(1) 第1回の講義では本講義に関するルールや評定計算の詳細など重要な点を説明するので、注意すること。 (2) 本講義では15分を超えての遅刻は認めない。		
授業計画詳細			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	講義の方法とルール、評定方法などについての説明		
第2回	社会集団化(さまざまな社会集団の形成)		
第3回	同 (社会集団化とカースト)		
第4回	同 (カーストの概要)		
第5回	同 (カーストの事例)		
第6回	同 (カーストの流動化)		
第7回	同 (カースト間の紛争とその解決)		
第8回	同 (経済発展とカースト)		
第9回	国際協調 (国際紛争の顛末)		
第10回	同 (国際協調の試み)		
第11回	同 (国際協調の挫折)		
第12回	同 (国ごとの対応とその限界)		
第13回	同 (世界経済の破綻)		
第14回	同 (第二次大戦の教訓)		
第15回	同 (国際機関の成立)		
第16回			

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 7
開講期間 / Class period	2015/04/01 ~ 2015/09/27		
必修選択 / Required/Elective class	選択, 自由	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0, 0.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20150567005050	科目番号 / Subject code	05670050
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	生命の科学(医療現場の安全と安心)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	橋爪 真弘		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	橋爪 真弘		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	橋爪 真弘, 田崎 修, 田中 隆, 新川 哲子		
科目分類 / Class type	査定外, 人間科学科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	[経済]新館101(講義室)		
対象学生(クラス等) / Object Student	2年次生		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	hashizum@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室 / Laboratory	熱帯医学研究所 小児感染症学分野		
担当教員TEL / Tel	095-819-7764		
担当教員オフィスアワー / Office hours	hashizum@nagasaki-u.ac.jp		
授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives	急速なグローバル化や災害への対策が急務とされる今日の状況において、医療現場で人々の健康に関する安全と安心を維持するためにどのような対応が求められるか、総合的に理解する。		
授業到達目標 / Goal	医療現場で人々の健康に関する安全と安心を維持するためにどのような対応が求められるか、自ら努力をして維持することが重要であることを認識できるようになる。		
授業方法(学習指導法) / Method	講義を基本とする。必要に応じてアクティブラーニング手法を取り入れる。		
授業内容 / Class outline / Con	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション: 人々の健康に関する安全と安心</li> <li>2. 気候変動と感染症</li> <li>3. デング熱ってなに?</li> <li>4. エイズは蚊でうつるか? : 蚊と感染症</li> <li>5. アフリカの暮らしと蚊</li> <li>6. 緊急被ばく時における放射線リスクと危機管理</li> <li>7. 放射線障害を受けた住民に対する支援活動の実際</li> <li>8. 医薬品開発の歴史: くすりは毒から作られた</li> <li>9. 身近な毒と, 毒を克服した生物たち</li> <li>10. くすりと食べ物の境界はどこか(病気の予防と治療)</li> <li>11. 食とくすりの安全について考える</li> <li>12. 救急医療の現状と課題</li> <li>13. 災害医療の現状と課題</li> <li>14. 救急医療における臓器提供と終末期医療の現状と課題</li> <li>15. 安心な災害医療・救急医療に向けて我々が取り組むべきこと</li> </ol>		
キーワード / Key word	放射線リスク、災害医療、天然毒、熱帯感染症、気候変動		
教科書・教材・参考書 / Textbook, Teaching material, and Reference book	教科書は用いない。必要に応じて参考書を紹介する。		
成績評価の方法・基準等 / Evaluation	授業参加度、レポート、プレゼンテーション、試験(担当者で異なる。授業の初めに連絡予定)で評価する。		
受講要件(履修条件) / Requirements	特になし		

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	金 / Fri 6
開講期間 / Class period	2015/04/01 ~ 2015/09/27		
必修選択 / Required/Elective class	選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20150567007050	科目番号 / Subject code	05670070
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	人間と環境(安全と安心の街づくり)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	植木 とみ子		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	植木 とみ子		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	植木 とみ子		
科目分類 / Class type	人間科学科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	[経済]新館101(講義室)		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	tuterrace@kzh.biglobe.ne.jp		
担当教員オフィスアワー/Office hours	eメールにて随時受け付けます		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	安全安心というキーワードを通して、真に豊かな生活を考える		
授業到達目標/Goal	真に民主政治を担うことが出来る、自立した個人を育成する		
授業方法(学習指導法)/Method	課題に関する資料の読み込み、ディスカッション、共通理解		
授業内容/Class outline/Con	安全安心の街とは何かをあらゆる方面から考え、その中での個人の役割を認識する		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	植木とみ子著「市役所の女」海鳥社、プリント、行政資料		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	課題30%、授業参加度30%、試験40%		
学生へのメッセージ/Message for students	常に社会の出来事をチェックし、自分との関係を考えること		
授業計画詳細			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	防災 あなたにとって安全安心の街とは		
第2回	防災 具体的な行動		
第3回	防犯 無力な存在はどう護られるか		
第4回	防犯 あなたは安全な環境にいるか		
第5回	防犯 あなた自身の心は安全か		
第6回	安全安心の街とは 長崎は住みやすいか		
第7回	環境・街づくり 長崎の道路事情		
第8回	環境・街づくり ユニバーサルデザインの街		
第9回	環境・街づくり 水資源をどう護るか		
第10回	環境・街づくり ごみ減量の取組み		
第11回	子育て・教育 母親の孤立を防ぐ		
第12回	高齢者・障害者 弱者支援とは		
第13回	地域での共生を考える		
第14回	生活の中での安全安心 食品問題と消費者問題		
第15回	安全安心の街はどう造られるか		
第16回			

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	金/Fri 7
開講期間 / Class period	2015/09/28 ~ 2016/03/31		
必修選択 / Required/Elective class	選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20150568009050	科目番号 / Subject code	05680090
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	地球と宇宙の科学(水環境の安全と安心)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	田邊 秀二		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	田邊 秀二		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	田邊 秀二, 夢田 彰秀		
科目分類 / Class type	自然科学科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	[ 経済 ] 本館 1 2 ( 講義室 )		
対象学生(クラス等) / Object Student	経済(夜間主)		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	s-tanabe@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Laboratory	工学研究科(総合教育研究棟 7 F 7 0 9)		
担当教員TEL/Tel	095-819-2659		
担当教員オフィスアワー/Office hours	12:00-12:50(事前にメールで連絡すること)		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	日本は地球の温帯地域にあり、四季を通じて降雨があるため水には恵まれてきた。しかし、途上国においては、安全な飲料水の確保は喫緊の問題であり、日本に限らず、先進国の水処理技術の導入が急がれている。この講義では、工学研究科の水環境技術者育成に関わる教員により、水環境に関する技術の現状、問題点を整理し、日本の持つ先進的なモニタリング技術、アセスメント、膜や生物処理を使った最先端水処理技術などを理解することで、普段気づかない水環境の安全・安心について考える。		
授業到達目標/Goal	水環境に関する問題について解説できる。水環境のモニタリング技術、廃棄物問題、水処理技術について説明できる。		
授業方法(学習指導法)/Method	講義を基本とする。必要に応じてアクティブラーニング手法を取り入れる。		
授業内容/Class outline/Con			
キーワード/Key word	水、膜、廃棄物、水環境、分離、生物処理、シミュレーション		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	教科書は使用しない。必要があればプリントを配付し、参考書を紹介する。		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	講義への積極的参加(40%)、レポート課題の評価(60%)の総合点で評価する。		
受講要件(履修条件)/Requirements	特になし		
授業計画詳細			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	オリエンテーション：有明海や水俣湾における水環境の現状		
第2回	水環境モニタリング技術について		
第3回	水道と水源池		
第4回	水源を守る		
第5回	日本国内外の廃棄物処理の現状から起こる、水問題について(1)		
第6回	日本国内外の廃棄物処理の現状から起こる、水問題について(2)		
第7回	化学薬品、重金属などの危険物質の現状と対策について		
第8回	世界の水環境問題と膜分離技術の貢献について		
第9回	<水を造る>膜分離技術概論 - 現状と展望 -		
第10回	<水を再生する>膜分離技術概論 現状と展望 -		
第11回	水環境生態系の保全と修復		
第12回	環境シミュレーションの方法と数値計算の原理		
第13回	コンピュータによる数値計算の手続き		
第14回	環境問題へのシミュレーションの応用例		
第15回	水環境の安全・安心に関する総括と評価試験		
第16回	評価結果に対する指導		